

奈良県がん対策推進アクションプラン

平成23年3月
奈良県

奈良県がん対策推進アクションプラン（もくじ）

1. がん医療分野

- (1) 放射線療法・化学療法 p. 1
- (2) 緩和ケア p. 2
- (3) 在宅医療 p. 3
- (4) 医療機関の整備等 p. 4

2. 相談支援分野

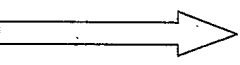
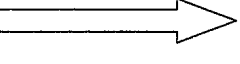
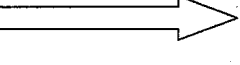
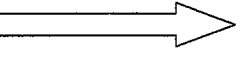
- (1) 相談支援・情報提供 p. 5

3. がん予防・がん早期発見分野

- (1) がんの早期発見・がん予防 p. 7

奈良県がん対策推進アクションプラン

がん医療分野

項目	目標	評価指標、数値目標 測定方法	施策グループと 目標 (アウトプット)	実施主体	24年度までの行動と目標 (アウトプット)	23年度の具体的行動計画	24年度の具体的行動計画
放射線治療 ・化学療法	<p>長期目標 「必要ながん専門医療者が配置され、がん患者が適切なガイドラインに基づいた標準治療を受けることができる。」</p> <p>中期目標 「長期目標を達成するため、体制整備が進み、評価が可能となり、目標数値の改善が確認される」</p> <p>《参考》 奈良県全体目標1 「がん死亡を20%減少させる」 奈良県全体目標2 「がん患者・家族の苦痛軽減・療養生活向上」</p>	<p>①評価指標 評価指標 ・必要ながん専門医療者の充足率 数値目標 ・現状値と必要値を測定するうえ、目標を設定 測定方法 ・放射線治療、化学療法実態調査(H22年度実施)</p> <p>②評価指標 (プロセス指標) 評価指標 ・標準治療順守率など 数値目標 ・現状値を測定するうえ 目標を設定 測定方法 ・検討する</p> <p>③評価指標 (参考指標) 評価指標 ・放射線治療を実施された患者の割合 ・化学療法を実施された患者の割合 数値目標 ・現状値を参照するうえ 目標を設定 測定方法 ・検討する</p>	<p>①がん医療に関する評価指標を整備 ・がん医療資源の必要数と現状数のギャップと増加目標を設定</p> <p>②がん専門医療者を確保、育成</p> <p>③拠点病院で標準ガイドラインに基づく標準治療が実施できる体制整備</p>	県	<ul style="list-style-type: none"> ○評価方法(指標、測定等)検討し指標設定し測定する ○評価を実施、分析、見直しを行う ○放射線治療、化学療法実態調査(H22.3月実施)分析結果を対策に活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価方法を検討、指標を設定 ○放射線治療、化学療法実態調査(H22.3月実施)分析結果を対策に活用 	
				拠点病院 医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ○放射線治療、化学療法実態調査(H22.3月実施)に協力を活用 ○問題点の具体的な解決案作成と実行 	<ul style="list-style-type: none"> ○放射線治療、化学療法実態調査(H22.3月実施)分析結果を対策に活用 ○文部科学省のがんプロフェッショナル養成プラン等がんの専門家を養成するための事業に対する支援策の検討 ○放射線治療の高精度化に伴うセンター化への体制づくりの検討 	
				県	<ul style="list-style-type: none"> ○文部科学省のがんプロフェッショナル養成プラン等がんの専門家を養成するための事業に対する支援策の検討と実施 ○放射線治療の高精度化に伴うセンター化への体制づくりの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○文部科学省のがんプロフェッショナル養成プラン等がんの専門家を養成するための事業に対する支援策の検討 ○不足が問題になっている人員(スタッフ)の確保、専門医等の養成、診療・連携体制の充実等に関する具体案の作成 ○放射線治療の高精度化に伴うセンター化への体制づくりの検討と具体的な計画の立案 	
				拠点病院	<ul style="list-style-type: none"> ○化学療法の充実(化学療法を円滑に安全に施行) ・専門知識等を備えた、医師、薬剤師、看護師等の育成 ・研修システムの構築 ・がん診療医療機関において、化学療法が円滑に安全に施行できる仕組みづくり ○放射線治療の充実 ・他科・他院との連携体制づくり (放射線治療部門だけでは診療できない疾患も多いため) 	<ul style="list-style-type: none"> ○化学療法の充実(化学療法を円滑に安全に施行) ・専門知識等を備えた、医師、薬剤師、看護師等の育成 ・研修システムの構築 ・がん診療医療機関において、化学療法が円滑に安全に施行できる仕組みづくり ・県と連携して、人員増員、機能充実等による治療待ち日数の軽減、病病連携、病診連携による治療施設間の協力体制の強化を行う。 ○放射線治療の充実 ・他科・他院との連携体制づくり (放射線治療部門だけでは診療できない疾患も多いため) ・県と連携して、人員増員、機能充実等による治療待ち日数の軽減、病病連携、病診連携による治療施設間の協力体制の強化を行う 	

項目	目標	評価指標、数値目標、測定方法	施策グループと目標(アウトプット)	実施主体	24年度までの行動と目標(アウトプット)	23年度の具体的な行動計画	24年度の具体的な行動計画
緩和ケア	<p>長期目標 「すべてのがん患者が、居住する地域にかかわらず、必要な時に質の担保された切れ目のない緩和ケアを受けられる。」</p> <p>中期目標 「長期目標を達成するための整備が進み、治療の初期から緩和ケアの実施が可能となる」</p> <p>《参考》 奈良県全体目標 1 「がん死亡を20%減少させる」</p> <p>奈良県全体目標 2 「がん患者・家族の苦痛軽減・療養生活向上」</p>	<p>①評価指標 評価指標 数値目標 測定方法 23年度検討</p>	<p>①評価方法を整備する</p>	県	<p>○評価方法(指標、測定等)検討 指標設定し測定する</p>	<p>○評価方法を検討、指標を設定</p>	<p>○評価を実施、分析、見直しを行う</p>
			<p>②緩和ケア提供体制の整備 ・すべてのがん患者が、がんと診断された時に緩和ケアについて主治医等から説明を受け、患者の選択により、治療の初期段階から緩和ケアを受けられる。 ・拠点病院以外の病院においても緩和ケアチームの設置を推進することで、がん患者が緩和ケアを受けることができる。 ・がん患者が希望する療養場所で終末期を迎えることができる</p>	県	<p>○拠点病院以外のがん診療医療機関に緩和ケアチームの設置を推進し緩和ケアの充実を図る ・緩和ケアチームを有する病院の増加 16HP(H22.9)→増加 ・ホスピス・緩和ケア病床整備を促進 ・緩和ケア病床の増加 20床(H21.7.1)→増加</p>	<p>○がん診療医療機関における緩和ケア実施状況調査 緩和ケアチームは設置していないが、緩和ケア認定看護師等による緩和ケア提供状況等 ○がん患者等意識調査結果から必要病床数算出。 ホスピス・緩和ケア病床整備について検討</p>	<p>○在宅緩和ケア支援センター設置に向けて検討(北・中南部に各1ヶ所) ○緩和ケアチームによる緩和ケアの提供 ○ホスピス・緩和ケア病床整備検討</p>
			<p>③がん診療に携わるすべての医師等医療関係者が緩和ケアについての知識を習得。 ・がん診療に携わるすべての医師等医療関係者が研修により緩和ケアの基本的知識を習得でき、がん患者に質の担保された緩和ケアを提供できる。</p>	県	<p>○緩和ケア研修の周知、啓発 ・緩和ケア研修を受けた医師の増加 30人(H20年度末)→500人 ・緩和ケアについての専門知識と技能を備えた人材を育成 緩和ケア認定看護師の増加 12人(H20.6)→増加 (H22:19人)</p>	<p>○「奈良県版患者必携」をがんと診断されたすべてのがん患者に確実に手渡し、「緩和ケア」について説明。 ・患者必携を活用し、初期から緩和ケアを提供できるシステムを検討 ○必携をいつ、だれが、どの様に手渡すのか等についてマニュアル作成 ○県がん拠点病院協議会の緩和ケア分科会において、システム、マニュアルを全ての拠点病院で実施できるように検討し協議会にかけける ○ホスピス・緩和ケア病棟の役割検討 ・在宅ケア施設との連携・在宅患者のレスパイト(家族の休養)・症状緩和、最後の療養の場の提供、家族遺族ケア等 ・特に在宅ケア施設との連携・在宅患者のレスパイト(家族の休養)については今後進めていく</p>	<p>○奈良県版患者必携を活用し、緩和ケアについての情報提供</p>
			<p>拠点病院 医療機関 診療所</p>	<p>○携拠点病院において、がんと診断された全てのがん患者に「奈良県版患者必携」を基に緩和ケアについての情報提供</p> <p>○ホスピス・緩和ケア病棟の機能の明確化</p>	<p>○「奈良県版患者必携」をがんと診断されたすべてのがん患者に確実に手渡し、「緩和ケア」について説明。 ・患者必携を活用し、初期から緩和ケアを提供できるシステムを検討 ○必携をいつ、だれが、どの様に手渡すのか等についてマニュアル作成 ○県がん拠点病院協議会の緩和ケア分科会において、システム、マニュアルを全ての拠点病院で実施できるように検討し協議会にかけける ○ホスピス・緩和ケア病棟の役割検討 ・在宅ケア施設との連携・在宅患者のレスパイト(家族の休養)・症状緩和、最後の療養の場の提供、家族遺族ケア等 ・特に在宅ケア施設との連携・在宅患者のレスパイト(家族の休養)については今後進めていく</p>	<p>○奈良県版患者必携を活用し、緩和ケアについての情報提供</p>	
<p>拠点病院 医療機関 診療所</p>	<p>○緩和ケア研修の開催(年6回) ○緩和ケア研修受講 H24年度:500人 ○在宅医を対象に緩和ケア研修(看取り)の開催</p>	<p>○医師会、病院協会に広報依頼 (各会員に周知、ホームページに掲載等) ○ポータルサイト及び県ホームページによる啓発 ○メーリングリストを活用し啓発 (がん医療機関、診療所) ○ポスターによる周知(H23.3月作成)</p> <p>○関係医療機関と連携してアドバンスコースを在宅医と病院勤務医に分けてモデル的に実施</p>	<p>○緩和ケアアドバンスコースの実施 ○緩和ケア研修システムの検討 ・ホスピス・緩和ケア病棟での実務研修</p>				
<p>各種団体</p>	<p>○各会員に周知、ホームページに掲載等広報を行う(医師会、病院協会) ○「緩和ケア」に重点をおき研修会開催(薬剤師会) (薬物療法以外の緩和医療についての研修)</p>	<p>○各会員に周知、ホームページに掲載等広報を行う(医師会、病院協会) ○「緩和ケア」に重点をおき研修会開催(薬剤師会) (がん疼痛に対する薬物による緩和治療の研修)</p>					

項目	目標	評価指標、数値目標、測定方法	施策グループと目標(アウトプット)	実施主体	24年度までの行動目標(アウトプット)	23年度の具体的な行動計画	24年度の具体的な行動計画
緩和ケア			④がん患者や県民等への情報提供、普及啓発・ホスピス・緩和ケアについて、正しい知識を持つ県民等が増える。	県	○シンポジウム、タウンミーティングの開催 ○各種団体と協働にてキャンペーン ○地区別市民公開講座の開催	○シンポジウム、タウンミーティングの開催(北・南和各1回) ○各種団体と協働にてキャンペーン	
				診療所		○地区別市民公開講座の開催	○地区別市民公開講座の開催
				患者家族	○講演会の開催 ○新たなホームページの開設(5月頃) ○県主催のシンポジウム、タウンミーティングとの共催 ○地区別市民公開講座への協力	○講演会の開催 ○新たなホームページの開設(5月頃) ○県主催のシンポジウム、タウンミーティングとの共催 ○地区別市民公開講座への協力	
				県民	○ホスピス・緩和ケアに関する適切な情報収集と正しい知識を獲得	○講演会、市民公開講座等への積極的に参加 相談窓口の活用	
在宅医療	<p>長期目標 「在宅医療を希望するすべてのがん患者が住み慣れた家庭や地域で安心して療養できる」</p> <p>中期目標 「長期目標を達成するため、整備が進みスムーズに病院から在宅への移行が可能となる」</p> <p>《参考》 奈良県全体目標1 「がん死亡を20%減少させる」 奈良県全体目標2 「がん患者・家族の苦痛軽減・療養生活向上」</p>	<p>①評価指標 評価指標 ・在宅看取り率 数値目標 ・在宅看取り率の向上 測定方法 ・在宅看取り率調査</p> <p>参考指標: ・在宅を希望する人の率も測定し、在宅死亡者/在宅希望者を算定する。</p> <p>②評価指標 評価指標 ・在宅かかりつけ医を持っている患者の割合 ・退院可能となった日から退院までの日数 ・退院日から在宅ケア開始までの日数 ・在宅ケア開始から死亡までの日数</p>	①在宅医療評価指標の整備	県	○在宅看取り調査を実施、分析結果を対策に活用	○在宅看取り調査を実施、分析結果を対策に活用	
				拠点病院 医療機関 診療所	○在宅看取り調査に協力する	○在宅看取り調査に協力する	
				患者家族	○在宅看取り調査を知り回答し結果を知る	○在宅看取り調査を知り回答し結果を知る	
				県民	○在宅看取り調査とその結果に関心を持つ	○在宅看取り調査とその結果に関心を持つ	
				県	○保健所(奈良市、郡山、桜井、葛城、吉野)において地域医療連携ネットワークづくり	○保健所において、関係機関とのネットワーク構築に向けた取り組み(準備) ・地域医療連携体制基盤整備検討会開催、研修会の開催	○地域医療連携ネットワークづくり
				拠点病院 医療機関 診療所	○病院、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション等との連携を図る	○病院、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション等との連携を図る	
				患者家族	○ネットワークの取り組みへの協力	○ネットワークの取り組みへの協力	
				県	○病院からスムーズに在宅に移行するための「医療者用ガイドライン」の作成・配布・普及 ○在宅緩和ケア支援センター設置に向けて検討 ○診療所、医療機関等ががん診療対応状況について調査を行い、がん診療対応リストを作成・配布・普及 ○在宅での療養を選択できる患者数を増加させる ○クリーンルーム設置薬局 1ヶ所(H23年度)→2ヶ所	○病院からスムーズに在宅に移行するための「医療者用ガイドライン」の作成・配布・普及 ○がん診療対応状況について調査を行い、がん診療対応リストを作成・配布・普及(県内医療機関、診療所、薬局等を対象に、がん患者の診断、治療の経験、検査、診断可能な項目、往診有無(深夜の往診)、往診可能な範囲、看取りの可能等を内容とした調査) ○がん患者の在宅医療サービス向上のための無菌調剤可能なクリーンルーム設置する薬局の整備(1ヶ所)	○在宅緩和ケア支援センター設置に向けて検討 
				拠点病院 医療機関 診療所	○「医療者用ガイドライン」の周知を図るため主治医等とのコンセンサスを得る ○退院時カンファレンスの開催 ○がん診療対応状況調査に協力	○「医療者用ガイドライン」の周知を図るため主治医等とのコンセンサスを得る ○退院時カンファレンスの開催 ○がん診療対応状況調査に協力	○医療者用のガイドライン、がん診療対応リストを活用し、在宅医療を推進させる

項目	目標	評価方法、数値目標、測定方法	施策グループと目標 (アウトプット)	実施主体	24年度までの行動目標 (アウトプット)	23年度の具体的行動計画	24年度の具体的行動計画	
在宅医療		・在宅がん患者に使用されている麻薬の割合 測定方法 ・23年度検討		各種団体	○薬局間のネットワークの整備	○医療用麻薬を扱える対応可能薬局のネットワークと調整 ○24時間麻薬を扱える対応可能薬局の医療圏毎のリスト作成(5月頃予定)・配布・普及 ○他職種(訪問看護師、ケアマネージャー等)とのカンファレンスに積極的に関わっていくために合同研修会参加(薬剤師会)	○リストの活用 →	
			④在宅療養に携わる人材育成	県 診療所 各種団体	○医師、訪問看護師、介護ヘルパー等を対象とした研修会開催 ○在宅医を増やすための講演会開催 ○かかりつけ医を対象に初期緩和ケアについて研修 ○無菌調剤可能なクリーンルームでの作業研修(会員の薬剤師)会営業局での無菌調剤手技の研修	○医師、訪問看護師、介護ヘルパー等を対象とした研修会開催 ○在宅医を増やすための講演会開催 ○かかりつけ医を対象に初期緩和ケアについて研修 ○無菌調剤可能なクリーンルームでの作業研修(奈良会営業局の薬剤師)病院薬剤部での無菌調剤手技の研修	→	
			⑤在宅医療についての情報提供と普及啓発	県	○ポータルサイト及び県ホームページによる情報提供 ○県政だより ○がん医療に係る研修会等で啓発	○ポータルサイト及び県ホームページによる情報提供 ○県政だより ○がん医療に係る研修会等で啓発	→	
				拠点病院 医療機関 診療所	○「奈良県版患者必携」を活用し、情報提供	○「奈良県版患者必携」を活用し、情報提供	→	
				各種団体	○会員に対してがん情報発信への研修会開催(薬剤師会)	○会員に対してがん情報発信への研修会開催(薬剤師会)	○会員に対してがん情報発信への研修会開催(薬剤師会)	
			患者家族	○周知と広報に協力	○周知と広報に協力	→		
医療機関の整備等	長期目標 「がん患者が、診断、治療そして在宅緩和ケア、看取りまで、切れ目のない地域連携による質の高いがん医療を受けることができる」 中期目標 「長期目標を達成するため、がん診療に関する地域連携体制整備が進む。5大がん地域連携クリティカルパスが可能となる」 《参考》 奈良県全体目標 1 「がん死亡を20%減少させる」 奈良県全体目標 2 「がん患者・家族の苦痛軽減・療養生活向上」	①評価指標 評価指標 数値目標 測定方法 (地域連携のアウトカムを示す指標を検討する)	①医療機関の整備等に関する指標を整備する	県	○地域連携の向上を示す指標の検討	○地域連携の向上を示す指標の検討	○評価を実施、分析、見直しを行う	
			②がん診療に関する地域連携体制を整備	県	○医療機関の機能、役割の明確化 ○がん診療対応状況について調査を行い、がん診療対応リストを作成し、医療機関、診療所等に・配布・普及	○がん診療対応状況について調査を行い、がん診療対応リストを作成し、医療機関、診療所等に・配布・普及 ○保健所(奈良市、郡山、桜井、葛城、吉野)において地域医療連携ネットワークづくり ○仮称「私のカルテ」(5大がん患者用連携バス共通)の作成・配布・推進(自分の病気の医療情報を医療者と共有)	○がん診療対応状況について調査を行い、がん診療対応リストを作成し、医療機関、診療所等に・配布・普及(県内医療機関、診療所、薬局等を対象に、がん患者の診断、治療の経験、検査、診断可能な項目、往診有無(深夜の往診)、往診可能な範囲、看取りの可能性等を内容とした調査) ○保健所において、ネットワーク構築に向けた取り組み(準備) ・地域医療連携体制基盤整備検討会開催 ・研修会の開催 ○仮称「私のカルテ」作成(5大がん患者用連携バス共通) ・仮称「私のカルテ」(5大がん患者用連携バス共通)に必要な要件を整理 ・整理した要件の内容を検討 ・県がん診療連携協議会バス分科会との意見調整 ○仮称「私のカルテ」(5大がん患者用連携バス共通)をがん拠点病院、がん診療医療機関、診療所、訪問看護ステーション、保険薬局等に配布	○地域医療連携ネットワークづくり ○仮称「私のカルテ」の推進(5大がん患者用連携バス共通)
			③評価指標(プロセス指標) 評価指標 ・地域連携バス患者カバー率(患者数)	拠点病院 医療機関 診療所	○5大がん地域連携クリティカルパスの整備 ・全ての医療圏で5大がんの地域連携バスの整備 0医療圏→5医療圏	○県がん診療連携協議会 5大がんバス分科会において拠点病院共通のバス作成 ○5大がんバス作成に協力 ○がん診療対応状況調査に協力	○がん診療対応リストを活用しバスを積極的に運用	
			③地域連携バスに関する情報提供と普及啓発	県	○地域連携バスについて、がん患者、家族、県民、医療従事者にわかりやすく情報提供	○地域連携バスについて講演会等により周知 ○医療関係者を対象とした研修会の開催 ○チラシ、ポスター等による普及啓発	→	
				各種団体	○地域連携バスの積極的活用(医師会、病院協会、薬剤師会、看護協会等)	○会員を対象に地域連携バスについての研修会等を開催		

項目	目標	評価方法、数値目標、測定方法	施策グループと目標 (アウトプット)	実施主体	24年度までの行動目標 (アウトプット)	23年度の具体的な行動計画	24年度の具体的な行動計画
				患者家族 県民	○地域連携バスについての研修会や講演会等に積極的に参加 ○バスによるがん治療を受ける ○かかりつけ医を持つ	○地域連携バスについての研修会や講演会等に積極的に参加	○バスによるがん治療を受ける ○かかりつけ医を持つ

相談支援分野

項目	目標	評価指標、数値目標 測定方法	施策グループと 目標 (アウトプット)	実施主体	24年度までの行動と目標 (アウトプット)	23年度の具体的な行動計画	24年度の具体的な行動計画
相談支援・情報提供	長期目標 「すべてのがん患者、及びその家族が、不安、悩み、疑問に対し、いつでも身近なところで、必要な情報を受けることができる。」	評価指標 ・患者・家族満足度 初年度現状数値(ベースライン)を計測してから次年度などの目標を決定	①企画・立案・評価・測定方法を整理する ・患者家族満足度調査を実施し、分析結果を発表し、対策に活用する ・分野施策の企画立案評価に患者関係者が参加する	県	○患者・家族満足度調査を実施し分析結果を公表し対策に活用する ○患者・家族等が参加した委員会等で検討する	○患者・家族満足度調査を実施し分析結果を公表し対策に活用する ○患者・家族等が参加した委員会等で検討する	①患者・家族満足度調査を実施し分析結果を公表し対策に活用する ②患者・家族等が参加した委員会等で検討する
				拠点病院 医療機関	○患者・家族満足度調査に協力する	○患者・家族満足度調査に協力する	
				市町村	○患者・家族満足度調査を普及啓発する	○患者・家族満足度調査を普及啓発する	
				各種団体	○患者・家族満足度調査に協力する	○患者・家族満足度調査に協力する	
				患者家族	○患者・家族満足度調査を知り、回答し結果を知る	○患者・家族満足度調査を知り、回答し結果を知る	
				県民	○患者・家族満足度調査とその結果に関心を持つ	○患者・家族満足度調査とその結果に関心を持つ	
	中期目標 「長期目標を達成するため、体制の整備が進み、評価が可能となり、目標数値の改善が確認される」	○その他の参考指標 ・相談窓口認知度 ・相談窓口カバー率(利用者数) ・相談窓口問題解決度	②医療機関や公的機関の相談支援機能を強化する ・患者・家族の相談窓口認知度が高く、悩みの持つ人が利用する相談窓口利用者カバー率が高く、相談窓口問題解決度が高い状態を作る	県	○保健所に相談窓口を設置(4ヶ所) ○地域包括相談支援センターの設置を旨ざす(1ヶ所) ・全ての医療圏に相談窓口を開設 4医療圏→5医療圏	○保健所に相談窓口を設置(2ヶ所2011年10月頃)	○保健所に相談窓口を設置(2ヶ所) (利用者数が増加) ○地域包括相談支援センター設置の検討
				拠点病院 医療機関	○相談支援センターの利用者の拡大 ○相談支援センターの質の向上	○相談支援センターの内容と利用者に関する現状の把握 ○相談支援センターに関するPR(相談窓口認知率の向上) ○奈良県版相談員必携の検討 ○相談支援分科会への患者関係者参加	○相談支援センターの内容と利用者に関する現状の把握 ○相談支援センターに関するPR(利用者に関する現状の把握(利用件数の増加、質の向上)) ○相談支援センターに関するPR ○奈良県版相談員必携の作成と配布 ○相談支援分科会への患者関係者参加
				市町村	○相談支援センターの広報	○相談支援センターの広報	
				各種団体	○相談支援センターの広報	○相談支援センターの広報	
				患者家族	○相談支援センターの積極活用	○相談支援センターの積極活用	
				県民	○相談支援センターの積極活用	○相談支援センターの積極活用	
《参考》 奈良県全体目標 1 「がん死亡を20%減少させる」 奈良県全体目標 2 「がん患者・家族の苦痛軽減・療養生活向上」		③ピアサポート体制を整備する ・多くのがん患者家族が必要ときにピアによるサポートを利用できる	県	○保健所にピアサポーターによるピアサロンを設置(2ヶ所) ○ピアサポーターへの研修等実施 ・全ての拠点病院に患者サロンを設置 2病院→5病院 ・各医療圏で2名以上のピアカウンセリングを行うことができる相談員を養成 0人→10人(H22年度12人)	○保健所にピアサポーターによるピアサロンを設置(1ヶ所) ○ピアサポーターへの研修等実施 ・養成研修会1回 ・スキルアップ研修会1回 ○ピアサポーター意見交換会1回	○フォローアップ研修会開催 ○保健所にピアサポーターによるピアサロンを設置(1ヶ所) ○研修を受けたピアサポーターの活動の場の確保 ○がんピアサポーター-連絡協議会の設置、開催	
			拠点病院 医療機関	○患者サロンでのピアサポート支援 ○患者会育成支援 ○4サロン(医大、県奈良、天理よろづ、国保)合同患者サロンの開催 ○がんピアサポーター活動の場の確保	○患者サロンでのピアサポート支援 ○患者会立上げ準備 ○4サロン(医大、県奈良、天理よろづ、国保)合同患者サロンの開催に向けて検討 ○がんピアサポーター活動の場の確保	○患者サロンでのピアサポート支援 ・6ヶ所の拠点病院で患者サロン開設 ○患者会支援 ○合同患者サロンの開催 ○がんピアサポーター活動の場の確保	

項目	分野目標	評価指標、数値目標、測定方法	施策グループと目標(アウトプット)	実施主体	24年度までの行動と目標(アウトプット)	23年度の具体的行動計画	24年度の具体的行動計画
相談支援・情報提供	<p>長期目標 「すべてのがん患者及びその家族が、不安、悩み、疑問に対し、いつでも身近なところで、必要な情報を受け取ることができる。」</p> <p>中期目標 「長期目標を達成するための、体制の整備が進み、評価が可能となり、目標数値の改善が確認される」</p>	<p>①評価指標 ・患者・家族満足度 初年度現状数値(ベースライン)を計測してから次年度などの目標を決定</p> <p>測定方法 ・患者・家族満足度調査による</p> <p>④患者支援情報の整備と普及啓発を進める ・多くのがん患者家族が質の高い情報を手に入れている。</p> <p>⑤その他の参考指標 ・相談窓口認知度 ・相談窓口カバー率(利用者数) ・相談窓口問題解決度</p>	<p>④患者支援情報の整備と普及啓発を進める ・多くのがん患者家族が質の高い情報を手に入れている。</p>	市町村	○患者サロン、ピアサポートへの理解	○患者サロン、ピアサポートへの理解	○患者サロン、ピアサポートへの理解
				各種団体	○患者団体等と連携して ・患者サロンへの参加協力 ・がん患者家族のサポート	○患者団体等と連携して ・患者サロンへの参加協力 ・がん患者家族のサポート	→
				患者家族	○患者サロンの利用、参加	○患者サロンの利用、参加	
				県民	○患者サロン、ピアサポートへの理解	○患者サロン、ピアサポートへの理解	
				県	○「奈良県版患者必携」の作成と普及 ○奈良県がんポータルサイトの充実と普及 ○県政出前トーク(全市町村で実施)	○「奈良県版患者必携」の作成と普及 ○奈良県がんポータルサイトの充実と普及 ○県政出前トーク(全市町村で実施)	→
				拠点病院 医療機関	○病院ホームページの充実	○病院ホームページの充実	
				市町村	○地域包括支援センターや介護支援員の連絡会等を通じた啓発周知 ○介護や国保の窓口で情報提供 ○市民公開講座や病院ホームページの周知と広報に協力	○地域包括支援センターや介護支援員の連絡会等を通じた啓発周知 ○介護や国保の窓口で情報提供 ○市民公開講座や病院ホームページの周知と広報に協力	→
				各種団体	○健康介護まちかど相談薬局として、患者必携、相談支援などの情報提供(薬剤師会) ○患者サロン、患者サークル、患者家族サポートへの参加(健康づくりボランティア)	○健康介護まちかど相談薬局として、患者必携、相談支援などの情報提供(薬剤師会) ○患者サロン、患者サークル、患者家族サポートへの参加(健康づくりボランティア)	
				患者家族	○患者支援情報の普及啓発	○市民公開講座の開催	→
				県民	○患者支援情報への理解	○市民公開講座に参加 ○ポータルサイト、病院のホームページの閲覧	

がん予防・がん早期発見分野

項目	目標	評価指標、数値目標 評価方法	施策グループと 目標 (アウトプット)	実施主体	24年度までの行動と目標 (アウトプット)	23年度の具体的行動計画	24年度の具体的行動計画
がんの早期発見・がん予防	<p>(がん検診・早期発見) 長期目標 「適切で効果的ながん検診が行われ、がんの早期発見が進み、がんの死亡が減少する」</p> <p>中期目標 ・がん検診の実施、広報が確実に行われ、受けたいときに無理なく受けられる環境がある。 ・対象者が、がん検診を受診する必要性を十分理解している。</p>	<p>①評価指標 ・検診率 数値目標 ・50%以上 測定方法 ・胃・肺・大腸・子宮・乳がん :H19国民基礎調査より</p>	<p>①がん検診の受診率の向上 (胃・肺・大腸・子宮・乳)</p> <p>②市町村・保険者の、各がん検診受診率の向上</p>	県市町村医療保険者医療機関	がん診受診率の向上 50%以上	<ul style="list-style-type: none"> 市町村・保険者・医療機関との協議の実施 受診者の利便性を向上させる検診体制の検討 特定健診とがん検診の同時実施の推進 一回で特定健診と複数のがん検診を受けられる体制の検討 (ワンストップ検診) 検診車による巡回検診など集団検診拡大の検討 市町村サミット等での課題とし、市町村長の理解を高める。 健康づくり連絡会議 (市町村との意見交換の場) の定期的開催 協会けんぽ奈良支部との「県民の健康づくりの推進に向けた包括的連携事業に関する覚書」による、職場におけるがん検診の受診促進 医師会、検診機関、病院との協議の実施 検診未受診者の把握と積極的な受診勧奨 市町村のがん検診受診者台帳作成方法の検討 	(23年度の具体的行動計画の内容は継続)
				県市町村民間企業地域組織・団体		<ul style="list-style-type: none"> がん検診受診キャンペーン等の実施 「奈良県がんと向き合う日」キャンペーンを県内大型店舗で、県議会、地域組織・団体、企業等と共同で開催 県民だよりの記事掲載、県立図書館での展示、地域新聞等でのPR記事掲載 「奈良県がん検診応援団」県内企業による、啓発リーフレットの配布や講演会の開催等の実施及び自社社員への受診勧奨の実施 	→
				県市町村医療保険者		<ul style="list-style-type: none"> がん検診の重要性についての効果的な広報 内容の検討とその内容による啓発の実施 (早期発見・早期治療により助かった例、がん検診) 	→
				県市町村		<ul style="list-style-type: none"> がん検診受診率向上に関係する数値目標や評価指標を設定し、毎年モニターし、向上に努める 子宮頸がん予防の啓発活動の強化 予防ワクチン接種と併せリーフレット配布等正しい知識の普及啓発を実施 	→
				県医療保険者		<ul style="list-style-type: none"> 保険者による特定健診の受診券配布に併せて、がん検診案内を統一的に配布 未受診者への受診勧奨 コールセンターを設置し電話により、特定健診・がん検診の未受診者等への受診勧奨を実施 	→
				県		<ul style="list-style-type: none"> 健康長寿文化づくりモデル市町村において、草の根のがん検診受診率向上普及・啓発を実施 健康長寿ポータルサイト (仮称) によるがん関係情報の発信 早期 (子ども) からの健康教育に利用するDVDの作成と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ポータルサイトの発信情報の充実 DVDによる教育の実践拡大
		<p>②評価指標 ・科学的根拠に基づくがん検診の実施 (精度管理・事業評価の実施) 数値目標 ・市町村、医療機関 測定方法 ・県調査</p>	<p>③精度管理体制の整備。 ・市町村精度管理を実施する。 ・医療機関は、県や市町村の精度管理に協力する。 ・県民にわかりやすく広報される。</p>	県市町村医療機関	<p>○がん検診の精度向上のため、精度管理・事業評価の実施 (市町村・医療機関)</p> <p>○精密検査受診率の向上100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> がん予防対策推進委員会による精度管理 委員会の開催、市町村・医療機関への指導 市町村及び集団検診機関に対する、国の事業評価のためのチェックリストを用いた精度管理 精密検査機関からの結果フィードバックの徹底 市町村がん検診結果の集約と公表 	→
				県市町村		<ul style="list-style-type: none"> がん検診機関数の確保の検討 胃・肺・乳がんの検診読影医の養成の検討 がん検診従事者の資質向上のための研修会の開催 	→
				県医療機関			→

項目	目標	評価指標、数値目標 評価方法	施策グループと 目標 (アウトプット)	実施主体	24年度までの行動と目標 (アウトプット)	23年度の具体的行動計画	24年度の具体的行動計画
がんの早期発見・がん予防	(予防一般) ・県民の食事や運動などの生活習慣が改善することにより、がんの発生と死亡が減少する。	評価指標 ・野菜摂取量 (1日平均) ・塩分摂取量 (1日平均) ・脂肪エネルギー比率 評価目標 ・野菜摂取量 (1日平均)の増加 成人：350g以上 ・塩分摂取量 (1日平均)の減少 成人男性：10g未満 成人女性：8g未満 ・脂肪エネルギー比率の減少 20~40歳代：25%以下 測定方法 ・県調査	④栄養バランスのとれた食生活を実践する人の増加	県市町村 民間企業 地域組織・団体	○野菜摂取量 (1日平均)の増加 成人：350g以上 ○塩分摂取量 (1日平均)の減少 成人男性：10g未満 成人女性：8g未満	○職場での生活習慣改善対策を推進 各保健所が事業所と協力して従業員を対象に食生活の改善や運動習慣化のためのモデル事業を実施 ○食環境協力店(仮称)の募集と活動支援 ○食生活改善推進員による啓発イベントや教室の開催 イベント(県内スーパー等)、保育所等での教室活動	→
				県	○脂肪エネルギー比率の減少 20~40歳代：25%	○栄養バランスや栄養摂取状況を把握するため県民健康栄養調査の実施 ○早期(子ども)からの健康教育に利用するDVDの作成と活用の推進(再掲)	
がんの早期発見・がん予防	(たばこ対策) 長期目標 「たばこの喫煙と受動喫煙を防止し、それにより、がんの発生と死亡が減少する」 中期目標 ・喫煙と健康に関する正しい知識が普及し、また、禁煙支援が行われることにより喫煙者が減少するとともに、公共施設等の禁煙化を達成することにより、受動喫煙が防止される。	評価指標 ・喫煙率 数値目標 ・減少 測定方法 ・県調査	⑤喫煙する人の減少 ⑥受動喫煙の防止	県市町村	○喫煙する者の割合の減少 成人：減少 未成年者：0%	○市町村施設・学校施設の禁煙化の推進	→
				県		○インターネットを使った禁煙希望者への禁煙支援 禁煙マラソンを活用した禁煙支援プログラムの開発と普及 ○早期(子ども)からの健康教育に利用するDVDの作成と活用の推進(再掲)	